

問1 戦国時代において、下の身分の者が上の身分を圧倒する「下剋上」の風潮が広まった背景として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 熊本県公立入試 類似）

- 幕府が強力な中央集権体制を確立し、地方の武士に直接命令を下すようになったため。
- 応仁の乱によって幕府の支配力が弱まり、各地で実力による領国支配が行われるようになったため。
- 農業技術が向上したことで農民が完全に自立し、武士による支配が消滅したため。
- 朝廷が新しい官位制度を導入し、能力に応じた地位をすべての人々に与えたため。

問2 16世紀のヨーロッパでは、既存の教会のあり方を批判する動きから宗教改革が起こり、新教とも呼ばれるプロテスタントが誕生しました。この宗教的な対立が、当時のポルトガルやスペインといったカトリック諸国の海外進出にどのような影響を与えたか、最も適切な説明を選びなさい。（2021年 愛知公立入試 類似）

- プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。
- プロテスタント諸国が海外進出を独占したため、カトリック諸国は布教よりも国内の防衛を優先させた。
- 宗教改革によってキリスト教の権威が失墜したため、ヨーロッパ諸国は布教を目的とした海外進出を完全に停止した。
- カトリックとプロテスタントの両勢力が協力体制を築き、イスラム教圏を回避するための新しい航路を開拓した。

問3 戦国大名の朝倉氏が定めた「城郭の構築に制限を設ける規定」や、伊達氏が定めた「年貢を納めない農民への処罰に関する規定」など、当時の大名が独自に定めた法典が持っていた共通の目的として、最も適切なものはどれか。（2024年 奈良公立入試 類似）

- 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること
- 室町幕府の将軍から授かった権限を、領民に広く知らしめること
- 土地をすべて公有とし、農民に平等に配分して税収を安定させること
- すべての裁判を天皇や公家が行うという原則を確立すること

問4 室町時代後期から戦国時代にかけて、幕府の権威が衰える中で、各地の戦国大名が自分の領国内を統治し、家臣団を統制するために独自に制定した法律の総称を何といいますか。（2023年 山口公立入試 類似）

- 分国法
- 武家諸法度
- 御成敗式目
- 公事方御定書

問5 戦国時代、各地の戦国大名は自らの実力で領国を統治するために独自の法令を制定しました。これらの法令において、「家臣同士が勝手に婚姻を結ぶことを禁止する」や「領国内での勝手な築城を禁止する」といった項目が盛り込まれた主な目的として、最も適切なものはどれですか。（2024年 東京都公立入試 類似）

- 領国内の家臣や国衆の結びつきを制限し、大名による領国支配を強化するため
- 鎌倉幕府が定めた御成敗式目の内容を、全国の農民に分かりやすく広めるため
- 江戸幕府が定めた武家諸法度を遵守し、将軍への忠誠心を示すため
- 朝廷から与えられた守護としての権限を、隣接する他の領国へ拡大するため

問6 1543年、九州南方の種子島に漂着した船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどこの国の人々ですか。（2014年 沖縄公立入試 類似）

- ポルトガル人
- スペイン人
- オランダ人
- イギリス人

問7 戦国時代、九州の種子島に伝来した武器をきっかけとして始まった南蛮貿易について、当時の状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2016年 長野県公立入試 類似）

- キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。
- 幕府の許可を得た朱印船により、東南アジア諸国との間で盛んに行われた。
- キリスト教の布教は厳しく制限され、貿易の窓口は長崎の出島に限定された。
- 銀や銅を輸出する代わりに、欧米から蒸気機関などの近代技術が導入された。

問8 会津地方を治めた蘆名氏や伊達氏が活躍していた日本の戦国時代において、世界で同時に起こっていた出来事として最も適切なものはどれですか。（2018年 福島県公立入試 類似）

- ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した
- アメリカで奴隷制をめぐる南北戦争が勃発した
- フランスで市民が自由と平等を求めて革命を起こした
- アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始した

問9 室町時代後半から戦国時代にかけて見られた、身分や立場が下の者が、実力によって上の者に打ち勝ち、その地位を奪う社会的な風潮を何といいますか。（2016年 静岡公立入試 類似）

- 下剋上
- 尊王攘夷
- 一向一揆
- 御成敗式目

答え合わせ・解説

| | | |
|----|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1 | 答え 2 応仁の乱によって幕府の支配力が弱まり、各地で実力による領国支配が行われるようになったため。 | 応仁の乱をきっかけに室町幕府の権威が失墜すると、従来の身分秩序や支配体制が崩れました。それまでの守護大名に代わり、実力で領国内を統制し、富国強兵を進める戦国大名が各地に出現したことが、下剋上の象徴的な現象です。 |
| 問2 | 答え 1 プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。 | 16世紀にルターやカルバンらが始めた宗教改革により、ヨーロッパではプロテスタントの勢力が拡大し、カトリック教会は大きな危機に直面しました。これに対抗するため、カトリック教会は内部改革を行うとともに、アジアやアメリカ大陸などの海外において新たな信者を獲得し、勢力を立て直そうとしました。イエズス会の設立やポルトガル・スペインによる積極的な海外進出には、このような宗教的な対抗意識と背景がありました。 |
| 問3 | 答え 1 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること | 戦国大名は、家臣が勝手に城を築くことを制限して反乱を防止したり、年貢の徴収を徹底して軍事費を確保したりすることで、領国の支配を確実なものにしようとしました。分国法は、戦国時代を勝ち抜くための「富国強兵」を目指した統治の仕組みです。幕府の権威が及ばなくなった時代背景を反映しています。 |
| 問4 | 答え 1 分国法 | 室町幕府の力が弱まり、実力で領地を支配する下剋上の世の中になると、戦国大名は幕府の法に頼らずに自らの領国を治める必要が生じました。そこで、領地内の秩序維持や家臣同士の私的な争いを禁じるために独自の法を定めました。武田氏の「甲州法度之次第」や今川氏の「今川仮名目録」などがその代表例です。 |
| 問5 | 答え 1 領国内の家臣や国衆の結びつきを制限し、大名による領国支配を強化するため | 戦国大名は、室町幕府の権威が衰退する中で、自らの実力で領地を治める必要がありました。分国法は、家臣たちが勝手に同盟を組んだり（婚姻の制限）、独自の軍事拠点を持ったり（築城の制限）することを防ぎ、大名を中心とした一元的な統治体制を築くために制定されました。これにより、領国内の紛争を裁定し、団結力を高める狙いがありました。 |
| 問6 | 答え 1 ポルトガル人 | 16世紀半ばの1543年、種子島に漂着した船に乗っていたポルトガル人によって鉄砲（火縄銃）がもたらされました。この出来事は、その後の日本の戦術や城郭の構造、さらには社会構造そのものを大きく変える契機となりました。当時の日本は戦国時代であり、新しい武器としての鉄砲は各地の戦国大名の間で急速に普及していきました。 |
| 問7 | 答え 1 キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。 | ポルトガルとの南蛮貿易では、戦国大名たちが武力強化のために鉄砲やその原料となる硝石（火薬の原料）を強く求めました。宣教師たちは貿易の利益を背景に布教活動への協力を求め、多くの戦国大名が貿易の利潤を得るためにキリスト教の布教を許可しました。 |
| 問8 | 答え 1 ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した | 日本の戦国時代は主に15世紀後半から16世紀にかけての時期を指します。この時期、世界ではルターによる宗教改革が始まり、キリスト教の世界に大きな変化が起きていました。南北戦争は19世紀、フランス革命は18世紀末、イスラム教の創始は7世紀の出来事であり、日本の戦国時代とは時期が異なります。 |
| 問9 | 答え 1 下剋上 | 応仁の乱以降、幕府や守護の権威が衰えたことで、家柄よりも軍事力や政治力といった実力が重視されるようになりました。家臣が主君を倒して実権を握るといったこの動きは、戦国時代の社会を象徴する現象です。選択肢にある「尊王攘夷」は幕末の思想、「一向一揆」は浄土真宗の門徒らによる抵抗運動を指します。 |